

十中だより

1月号

令和6年1月15日
文京区立第十中学校
校長 南 英昭

成長の年に

昨年中は、本校の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新しい年を迎え、抱負を立て目標を明確にした方も多いのではないでしょうか。特に、今年の干支(えと)は「甲辰(きのえ・たつ)」であり、「これまでのコツコツと蓄えられた学びが芽を出し、活力に満ちた草木のようにすくと伸びて、努力が花を咲かせる」という意味があるそうです。積み上げてきたことが力となり、向上する年であり、成長する年ということになります。

では、成長の年にするためには、どうしたらよいでしょうか。それには、自ら目標を立て、自ら行動に移すことが不可欠です。

始業式で、発明家のエジソンの言葉を引用して、「積極的に行動に移すことの大切さ」について話しました。「成功の反対は、失敗ではなく挑戦しないことである。」「私は失敗したことがない、ただ1万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ。」と言います。エジソンは、うまくいかないことを何回も繰り返し、その結果を生かし、あきらめずに挑戦し続けたことで、多くの発明をすることができました。同じ出来事でも、どのように捉え、どれだけ建設的に考えるかで、後の結果に違いが出ることも結構あるのではないのでしょうか。十中生にも自分の力を信じて、結果を恐れず積極的に「挑戦」し続けてほしいと思っています。そして、令和6年が皆さんにとって成長の年になることを願っています。

国際理解教室

独立行政法人国際協力機構(JICA)より泉安佐さんを講師として招き、12月9日(土)に「国際理解教室」を体育館にて実施しました。講師の方からは、中央アジアのタジキスタンでの経験やエピソードをもとに貴重なお話をいただきました。その中で、他者理解や異文化理解では偏見や先入観をもち相手を尊重し、相手を知らうとする姿勢が大切であるとお話がありました。また、生徒に向けて「挑戦すること」の大切さについても熱く語っていただきました。ありがとうございました。



講演後の生徒の感想を紹介します

私は、今回の授業をきいて、他文化共生の大切さを学びました。自分とは違う考え、趣味をもつ人と良い関係を築くには、その違いを否定せずに理解する必要があるとわかりました。また、そのような人と関わることで新しい発想や発見、アイデアを見つけられることもわかりました。自分は自分と似たような考えや趣味をもつ人と関わっていく方が楽だと思っていたけど、今回の授業で違った人と関わるのも良いと感じました。

今回、タジキスタンの人と生活、文化を学んだことで、世界の広さを知ることができた。また、偏見で物事や人々を考えることは、絶対にいけないことだと知れた。そして、今のうちに、色々な言語を学んでいきたいと思えた。これからは、もっと広い世界をみるために、やってみたいと思ったことは、考えず動いてチャレンジしていきたいと思った。

幸せの海プロジェクト

生徒会役員を中心に企画した「幸せの海プロジェクト」が実施されました。人権意識の向上や自己理解力、さらに人間関係を構築する力の育成を目指し、昨年の「感謝の花」に続いて、全校生徒参加で行われました。『言われてうれくなる言葉』を個々で考え、カードに記入し、各学級の有志がデザインした模造紙に貼って学級ごとの作品を完成させました。本校昇降口に掲示していますので、来校の際はご覧ください。

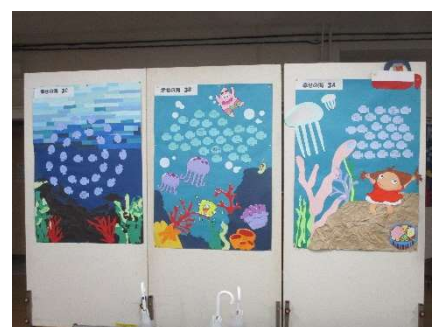
1年生



2年生



3年生



表彰、活動報告等

活動の名称	実績・連絡・案内等
薬物乱用防止ポスター	[佳作] 2年 2名
明るい選挙啓発ポスターコンクール	[佳作] 2年 2名
環境保全ポスター図案コンクール	[金賞] 3年 1名 [銀賞] 3年 1名 [銅賞] 3年 1名 [佳作] 3年 7名 【金賞の作品はポスターとして 掲示されています】
税の作文	[小石川青色申告会会長賞] 3年 1名
税の標語	[入選] 3年 2名
文京区読書感想文コンクール	[入選] 3年 4名、2年 2名

